




iPad & iOS

アップグレード 初心者ガイド

iOS 17とiPadOS 17へのアップグレードに向けて知っておきたいこと



iPadOSとiOSを アップグレードするための 準備はお済みですか？

AppleからiOSやiPadOSの最新バージョンがリリースされたら、IT管理者はワークフローの停滞や生産性の低下を防ぎながら新たな機能やシステムをユーザの手に届けなければなりません。

Appleの アップグレード の特徴

他のエコシステムとは異なり、Appleはオペレーティングシステムの大型リリース(別名「アップグレード」)を1年に一度行います。これには、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOSが含まれます。古いバージョンのソフトウェアをデバイスに搭載したままにしておく、一貫性、セキュリティ、およびユーザーエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。特に組織で使われているさまざまな種類のデバイスやOSプラットフォームを1つの管理ソリューションでサポートしている場合に、その傾向が強くなります。

プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、Apple OSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。エンドユーザーが最新の機能にアクセスすることを楽しみにする一方で、IT管理者にはセキュリティコントロールと正確なインベントリを維持し続ける責任があります。

多くのIT部門が知っているように、これは口で言うほど簡単ではありません。ユーザーが望むペースでアップグレードを実行する場合はなおさらです。ですが、ここで朗報です。

Jamfは20年以上にわたり、Appleのアップグレードを成功させるための詳細なガイドを提供してきました。初めてアップグレードを行う人だけでなく、手早くおさらいしたい経験豊富な管理者にも役立つ内容となっています。

新しいOSがリリースされたら直ちにデバイスをアップデートすべき主な理由として、以下の4点が挙げられます。

1. セキュリティの脆弱性の低減
2. 素晴らしいユーザーエクスペリエンスの維持
3. ユーザーの生産性の維持
4. 最新のIT管理機能へのアクセス

このガイドでは、最新のiOSやiPadOSへのアップグレードを準備および実行する方法について詳しく説明します。さらに、組織に価値のあるアップグレードを届け、アップデートを行うユーザーを支援する方法について知るとともに、業務の中断を最小限に抑え、予定外のダウンタイムをなくす方法についても学ぶことができます。

ベータ版での 検証

Apple Beta Software Programが提供する次期リリースのプレビューを利用すると、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く知ることができます。

AppleはOSを定期的にアップデートしており、ベータプログラムに参加すると正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。Appleは、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS向けに、有償の開発者向けプログラムと、無償のパブリックベータプログラムを提供しています。

ベータプログラムに参加すべき理由

1. オペレーティングシステムのベータプログラムは通常、複数のフェーズから構成されます。初期段階から参加し、Appleにフィードバックを提出することで、組織に大きな影響を与える可能性のある問題が解決する可能性が高まります。また、最初にバグを報告した人はサポートの進捗状態を確認することができます（その後には届いた重複したチケットはクローズされます）。
2. ベータプログラムに参加すると、新機能や互換性をいち早く試すことができだけでなく、ユーザエクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます。新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材やオリエンテーション資料などを更新する際に役立ちます。

このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。

3. 最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理やセキュリティとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。最新OSがリリースされたタイミングでアプリが問題なく機能するように、発見された問題について関連するベンダーに速やかに伝えることも大切です。

品質とユーザビリティに関するフィードバックは、Appleが問題を特定および修正し、ソフトウェアをユーザにとってより良いものにする上で役立ちます。

検証

最良の結果を得るために、またアップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えることのないように、以下をはじめとする技術スタック全体の検証をお勧めします。

1 インフラ

VPNやプリンタドライバなど、アプリケーションスタック以外のものは必ず最新OSで検証する必要があります。クラウドホスティングサービスに移行しつつある組織は、このステップがあまり重要でない場合もあります。

2 アプリケーション

これにはウェブベースのもの、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。自社サイトやドキュメントの中で、あるいは直接問い合わせても、将来的な互換性について発信することに積極的ではないベンダーのアプリケーションについては、自社で検証するのが最善です。

3 デバイス管理

これにはデバイス導入と管理のソリューション（MDM、EMM、UEMなど）が含まれます。お使いのデバイス管理ソリューションで最新OSの管理機能や制限などを検証できるかどうか確認してください。

4 セキュアな運用

これには、アイデンティティとアクセス、エンドポイント保護、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、お使いのセキュリティソリューションに新たなセキュリティ機能を検証する機能が備わっているかどうかを確認しましょう。

検証の優先 順位の決定

多くの組織では複数のアプリケーションが業務に使用されています。チームによってまったく異なるデバイスの使い方をしているためです。アプリケーションの検証を成功させるには、まず優先順位を決めることが大切です。

アプリケーションの重要度に基づいて検証の優先順位を高・中・低の3段階にランク付けする方法や、アプリの使用状況から優先順位を決める方法があります。優先順位の決め方と分類が決まったら、検証を行ってくれる志願者を各部署（例：財務、マーケティング、営業など）から募り、日常業務での使い心地や物事がスムーズに進むかどうかを確認します。

iPadOS、iOS、tvOSのアプリはアーキテクチャが異なるため、これらのプラットフォームにおいては手軽な検証が適しています。



OS17への アップグレード

実際にiPadやiPhoneデバイスにアップグレードを導入・実行するにあたり、2つの選択肢があります。ユーザ主導のアップグレードと、IT部門主導のアップグレードです。



各オプションについて説明する前に、Jamfの管理ソリューションでは、アップデートをリリース日以降まで延期することが可能です。この機能は、最新OSの検証がまだ終わってない、またはアップグレードの準備が整っていない場合などに便利で、延期中はデバイスをアップグレードすることはできなくなります。アップデートを実行する準備ができれば、最新OSの導入を実行します。

アップグレードする準備ができている場合

アップグレードを決行する場合は、ユーザとIT部門のどちらが行うのかを決めなければなりません。

ユーザ主導のアップグレード

ユーザにアップグレードを行ってもらう場合は、シンプルにデバイスの設定メニューから実行することができるため、ITの助けは必要ありません。

IT部門主導のアップグレード

Apple Business ManagerまたはApple School Managerでデバイスを管理している場合、IT部門がMDMコマンドを送信して最新OSをインストールすることができます。この際、ユーザの介入は必要ありません。

このコマンドは個々のデバイスまたはグループに向けて送信することができ、組織のニーズに合った形でアップグレードを行うことが可能です。

注意: パスコードが設定されていない場合は、インストールを自動的に行うことができます。パスコードが設定されている場合は、アップデートはキューに追加され、インストールを開始するためのパスコードの入力をユーザに促します。



宣言型デバイス管理による 管理対象ソフトウェアの アップデート

Jamf Cloudでは、宣言型デバイス管理による管理対象ソフトウェアアップデート機能を使って強制適用の期限を設定することができ、Jamf Pro経由で特定のデバイスグループに対してアップデートのバージョンや期限を簡単に指定することができます。

アップデートの詳細が定義されたら、iOSが適用の期限やアップデートに関する通知やリマインダーをエンドユーザーに送信します。さらにデバイスは、アップデートの進捗状況を積極的かつ自動的にJamf Proにフィードバックします。

※この機能を利用するには、デバイスがiOS 17またはiPadOS 17以降にアップデートされている必要があります。

アップグレード の準備ができて いない場合



いつアップグレードする場合でも、その当日からセキュリティが確保されます

構成プロファイルに新しく追加された Recommendation Cadenceキーにより、アップデートの選択肢がさらに増えました。

リリース直後に最新バージョンにアップデートすることで、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定をすぐに利用できるようになります。これ自体は素晴らしいことですが、現場に新しいOSを導入する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合もあります。あるいは、全面的なアップデートを行う前にセキュリティアップデートを行わなければならないケースもあります。

このような場合には、以前のオペレーティングシステムを使い続けながら、必要なセキュリティ設定だけをアップデートするオプションもあります。

これにより、IT管理者はセキュリティアップデートを見逃す心配をせずに、アップグレードの適切なタイミングを待つことができます。

エンドユーザへの 通知

最後に、アップグレードによってデバイスで何が起こるのか、そしてどのような形で協力して欲しいのかについて、率直かつ高い透明性を持ってエンドユーザに定期的に伝えましょう。これは、アップグレードのプロセス全体を通して常に意識すべきことです。

いつアップグレードできるのか、どのようなプロセスになるのか、またはなぜすぐにはアップグレードできないのかといったことに関して、エンドユーザと双方向のコミュニケーションを維持することでプロセスがスムーズになります。

また、このようなコミュニケーションが、この案件に関して発生するヘルプデスクへの問い合わせの削減につながるというメリットもあります。問い合わせが必要になる事態を未然に防ぐことにより、エンドユーザの満足度を高め、必要な時に快く協力してもらうことができます。

あらかじめエンドユーザに伝えるべきこと

1. アップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。
2. アップデート前にデバイスをバックアップをするよう勧めましょう。ローカルだけでなく iCloud のバックアップも行っておく必要があります。
3. 決められた日から30日以内にアップデートする方針を固め、それが行われない場合はIT管理者側で実行することを通知しておきましょう。PCIDSS のコンプライアンスでは30日以内のアップデートが要件となっています。

メールやイントラネットで、またはJamfを使用している場合はSelf Serviceのアプリ経由で、OSのアップグレードの前に時間に余裕を持って警告と推奨事項の通知を行っておきましょう。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。



アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

iOS 17とiPadOS 17がもたらす改善とワークフローの強化により、Appleならではの柔軟でカスタマイズされたデバイスが手に入ります。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、十分なセキュリティ対策やインベントリ管理を維持し、ダウンタイムを最小限に抑えることにつながります。Appleデバイスの管理に特化したソリューションがあれば、ユーザエクスペリエンスに支障を与えたり、IT担当者に多大な負担をかけたりすることなく、最新のApple OSを最大限に活用するためのツールをユーザに提供することができます。

Jamfは、ユーザエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えながら、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年以上にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。



今すぐ体験

または、お近くの販売代理店までお問い合わせください。